残席わずか

実際に機能するBCP/DRへの見直しと災害・パンデミック・サイバーセキュリティへの対応 【オンラインライブ】（4126148）

本セミナーでは、「BCPの規定類や手順書/マニュアルの目次 レベルの整備」「サイバーセキュリティのトリアージ手順」「コロナ対応で作成した各種手順書」等を例に挙げどのように規定類を整備しブラッシュアップして行くか検討します。また実際のセカンダリ・サイト構築など「コスト、技術力、 構築持続年数、採算等」の観点から現実に則した投資や実装を学習します。

開催日時	2026年8月31日(月) 9:00-16:00ライブ配信
JUAS研修分類	セキュリティ(サイバーセキュリティ)、要件定義から運用(運用)
カテゴリー	共通業務（契約管理、BCP、コンプライアンス、人的資産管理、人材育成、資産管理）・セキュリティ・システム監査 専門スキル
講師	石橋正彦 氏 （サイバー研究所 所長 ） 日本ユニシス（現BIPROGY）では中央銀行/都市銀行/信託銀行においてSWIFT決済に従事。ベリングポイント（現PwC)/ガートナーにてリスク管理を担当。フィナンシャルシステムプラン以降、勘定系のネットバンキング業務に従事。JUASでは研究会に12年在籍し、講師を8年に渡り実施。
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（１名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】
会場	オンライン配信（指定会場はありません）
対象	情報システム部門の担当者 防災・災害の担当者 管理部門のIT担当者 職務：保守/運用、リスクマネジメント レベル：システムエンジニア初級 初級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）
ITCA認定時間	6

主な内容

■受講形態
ライブ配信（Zoomミーティング）【セミナーのオンライン受講について 】
■テキスト
開催７日前を目途に発送（お申込時に送付先の入力をお願いします）
■開催日までの課題事項
特になし

本セミナーでは、「BCPの規定類や手順書/マニュアルの目次 レベルの整備」「サイバーセキュリティのトリアージ手順」
「コロナ対応で作成した各種手順書」等を例に挙げどのように 規定類を整備しブラッシュアップして行くか検討します。
また実際のセカンダリ・サイト構築など「コスト、技術力、構築持続年数、採算等」の観点から現実に則した投資や実装を 学習します。

◆主な内容
第１部 はじめに
・BCPとは、IT-BCPとの違い
・DR（ディザスタ・リカバリ）とは
・IT-BCPとISO22301(BCMS)とは
・サイバーセキュリティとは
・インシデント・レスポンス、トリアージとは
・サイバーセキュリティのCSIRT構築とリスク管理委員会の共通点
・初動行動や関連部署の召集、待機、長期化した場合の段取りや決め事
（事例）サンプルBCP規定への加筆

第２部　ランサムウェア対策、新型コロナウイルス対策の経過と各社の事例
・ランサムウェア対策は、どこまで来たのか
・2025年に起きたサーバーの特権IDを剥奪し、バックアップまで暗号化する攻撃紹介
・バックアップが最後の砦とは分かっているが、今からどのように構成を変えるか
・新型コロナウイルス対策での経過とその後の対応
・在宅勤務/テレワークの実践とセキュリティ面での勘所
（事例）各社が作成した手順書、規定類から当社の状況を整理する

第３部　ディザスタ・リカバリ実践
・ディザスタ・リカバリの基礎
・RPO/RTO、リカバリーポイントの基礎
・ディザスタ・リカバリ構築で最低限知っておきたい基礎知識
　（ファイル・システム、VOL、mount、フェールオーバー、DHCP等）
・ディザスタ・リカバリ構築の変遷

第４部　事例から見るDRやパンデミックのコストの考え方
・事例から見るセカンダリ・サイトへの投資
・コールドサイトを検討する最低投資ライン
・過去の研修であった質問（FAQ）
　親会社の規定から、子会社の規定へどのように反映させるか
　データセンターのコスト（情報システム子会社のコストの考え方）
　新型コロナウイルス対策で自社よりも委託先の稼働でコストが増えた

第５部　今後の運用
・DRaaS(サービスとしての災害対策）とは何か
・パブリック・クラウドが使えるのか、災害対策でのクラウド利用の考え方
・セカンダリ・サイトやデータセンター事業者の動向
（事例）パブリック・クラウドを利用した場合の災害対策

■参加者の声
・BCP/DRの考え方が、技術的な観点で説明されており、とても良かった。
・他の参加者の考えも含めて聞くことができた。
・ICTセキュリティ関連業務に携わる社員にとっては、業務手順を整理する上で勉強になる。